

林業とくしま



来年度のオープンに向け整備が進む

「三野町健康とふれあいの森」

「森林空間総合整備事業」により整備された施設

- 〔上〕 林内作業場
- 〔下左〕 林内歩道
- 〔下右〕 運動健康促進施設



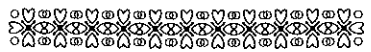
「小さい芽
大きく育てる 緑の募金」

(平成11年徳島県緑化標語優秀作品)

八千代中学校1年

田岡真奈美さんの作品

No. **249**
1999.8



集団化による保育事業の 推進を目指して

～神山町林業活性化協議会の森林適正管理への取り組み～

神山町林業活性化協議会

事務局長 寺奥 順 万

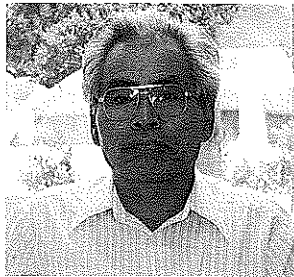
神山町では、町の基幹産業である林業の活性化を図る目的で平成六年度に林家、林業従事者、県、町、森林組合、林研グループ等で組織する「神山町林業活性化協議会」を組織しております。
さて、本町においても、年々厳しさの増す林業情勢のなか、民有林の七割をも占める「スギ・ヒノキ人工林の間伐等の適正な森林整備推進」や、過疎化に伴う不在村地者の増加等により年々不明確になりつつある「森

林の境界管理」という重要で緊急を要する問題を抱えております。

こうしたなか協議会が検討実施しております取り組みについてご紹介いたします。

(1) 集団化による保育事業の推進

この事業の基準は一団地五畝以上、関係林家二戸以上。そして、境界確認と境界杭の設置を条件とし、町独自の支援も付加して強力に除



間伐を推進する事業であり、初年度は、二団地で約五十畝の事業を実施

しております。事業の推進に当たっては、該当林地と関係林家の調査と連絡。県、町、森林組合、協議会の四者が連携しての集落毎の関係者会議の開催、現地での境界確認と境界杭の設置作業の順に実施いたしました。

この事業では境界確認と境界杭の設置が大変でした。今回二団地の関係林家数が、延べ七十数戸あり関係

者の積極的な参加をいただくため、十一月から十二月の日曜日毎に計画的に行いました。

その結果、この事業に対して不在村地者をはじめ、関係林家から大変なご好評をいただきました。

境界杭の設置で明確化した林地の調査(測量)と、保育事業(除間伐)は森林組合が中心となつて着々と進行中であります。現地調査で得た貴重な資料は、森林管理システムの導入のさきがけとして森林組合で保存し今後の森林管理等に有効に活用させたいと思っております。

(2) 神山町森林保育事業推進員の委嘱

協議会では、二十名の推進員さんを委嘱しております。推進員さんにはそれぞれ地域で訪宅や電話による細やかな活動をいただき、初年度は十八件、十年度は三六件で延べ約三十畝の推進をいただきました。なお、推進員さんの報償費については、活動費と推進実績による報酬の組合せで対応させていただいております。以上のような方法で取り組んでおりますが、更に、継続的に積極的に推進して参りたいと思っております。ご意見やご示唆がいただけましたら幸いです。ごさいいます。

も く じ (林業とくしま 249号)

やまびこ(集団化による保育事業の推進を目指して).....	2
鉄人コーナー(鏈打つ鉄人3代目).....	3
(登山通算1,000回に向けて)	
林政の窓(平成11年度林業関係予算).....	4
特集(森の案内人の紹介).....	6
林研とみんなの情報交流コーナー.....	8

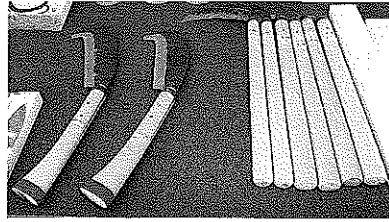
技術情報(林業技術情報コーナーの業務概要).....	10
阿波だぬき(体力維持への道).....	12
東西南北.....	13
編集後記.....	15
広告.....	15

鉋打つ鉄人

勝浦町

三代目

大久保善正氏



勝浦町三溪には、今ではもう珍しくなった鍛冶屋さんがありません。

大久保善正さんは、この土地で鍛冶屋を開いてから三代目に当たり、

お父さんは平成元年に現代の名工にも選ばれた名人です。

取り扱っている商品としては、ナタやクワなどの農林用道具のほか、刃物類、変わったところでは、牛の爪切り、うなぎはさみ、化石を掘り出すためのハンマーなど多岐にわたっています。

また、林業関係では上勝、勝浦は勿論のこと、遠くは神山町や土成町の篤林家からも注文があるそうです。作業場には炉が三つあり、作る物

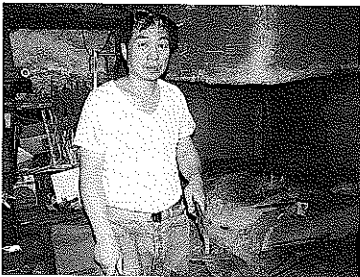
によって使い分けています。こちらで作

られる刃物は量産品のように切り抜いて作るのではなく、鋼を鉄で挟み込んだ昔ながらの日本刀と同じ製法で作られており、単価としては量産品よりは多少割高にはなりますが、客の注文に応じたきめ細かなニーズに対応でき、また、よそで買った製品を自分の好みに改良する経費などを足すと、結局こちらでオーダーメイドした製品と値段は変わらないそうです。

鉄人のお父さんの話によりますと、昭和三十年代が最盛期で、上勝、勝浦町だけで十二軒の鍛冶屋さんがあり、注文のほとんどが造林関係の道具で占められていたそうです。

時代とともに扱う商品もかわってききましたが、お客さんの注文がある限りこの仕事を続けていきたいと話しておられ

ました。山を支える鉄人が今日も鉋を打ち続けています。



登山通算

上那賀町

府殿長治氏

一、〇〇〇回に向けて

今回は「山登りの鉄人」府殿長治さん(六〇才)を紹介いたします。府殿さんは菱一林業株式会社勤務されており、阿南地区林業指導者会の会長としても活躍されています。

そんな府殿さんのもう一つの顔が山登りの鉄人であるということなんです。昭和三十六年に団体の登山部門が剣山で行われた時、友人に連れられて競技コースを登られたのを皮切りに、現在まで登山通算回数九〇〇回を超えています。多いときは、月に三〜四回山に足を運ばれ、この五月は連休の天候にも恵まれたこともあり、鳥取の大山をはじめ十回は登山されたそうです。北アルプス、南アルプスはもちろんのこと、四国の一〇〇名山もすでに登頂されています。

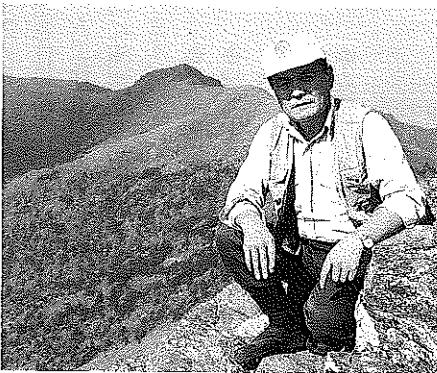
また同じ山をいろんなルートから挑戦しており、木沢村の平家平(一、六〇三m)については沢登りもいれて七コースを、通算二十回は登

頂しているそうです。

いつも一〜二人で登頂されることが多く、頂上付近で静かな山を感じる方がいいそうです。そういう意味で一番印象に残っている山は冬の平家平で、雪が五十cmほど積もった頂上付近は静寂につつまれ別世界を感じることができそうです。

今後は富士山と中央アルプスに挑戦したいということです。富士山に登頂されていないのは意外でしたが、人の多い山は敬遠されていたからだそうです。

今後、登山通算一、〇〇〇回を目指してこれからも山を愛し登山していきたいとのことなんです。



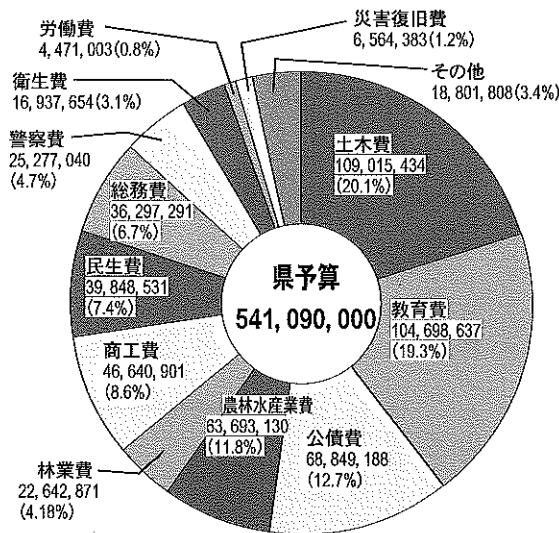
平成十一年度林業関係予算 「主要新規・拡充事業の概要」

【図1】

活力のある
農林水産業の振興
(森林・林業 22,037,801千円)
前年対比101.06%

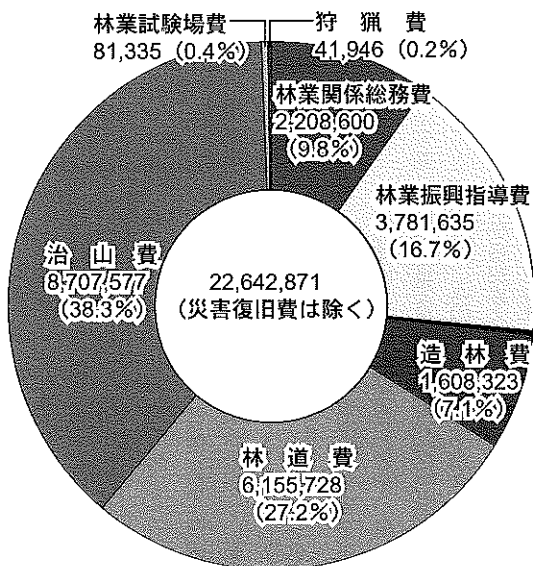
1	人づくり・組織づくり 林業経営の安定化, 担い手対策など	(999,123千円)
2	生産基盤づくり 林道開設等生産基盤の整備	(6,552,023千円)
3	とくしまブランドづくり 素材の生産体制の整備, 特用林産物の振興 木材の流通加工対策	(3,468,881千円)
4	新技術の開発と普及 試験研究, 普及指導など	(90,812千円)
5	自然環境を創造する多様な森林づくり 適切な森林整備の推進, 森林の保護, 保安林の整備 森林空間の総合利用, 県民参加の森づくり	(10,926,962千円)

【図2】 平成11年度県予算(当初一般会計) (単位:千円)



森林・林業に関する施策については、平成八年度に策定した「農林水産業・農山漁村振興基本構想」に基づき、計画的に推進(図1)しておりますが、平成十一年度県全体の当初予算(一般会計)については、厳しい財政状況により、五四一、〇九〇

【図3】 平成11年度林業関係予算



①新 森林整備緊急支援事業
県単独補助事業で、面的な間伐

②新 間伐重点実施事業
四四、〇〇〇千円

そのうち林業関係予算については、四・一八%の二二、六四三百万円(図3)で、前年対比一〇一・〇六%と僅かですが伸びています。ここでは平成十一年度主要新規・拡充事業について説明します。

- ◆実施期間 十一年度から十五年度
- ◆補助率 市内町村 三分の一
- ◆事業実施主体 市内町村
- ◆補助率 三分の一
- ◆内(市町村が合わせて三分の二以上補助するもの)

森林病害虫防除費 57,727 (0.3%)

を進めるために、整備の遅れている緊急性の高い三十六〜四十五年生の人工林の間伐を国補事業と一体的に実施する場合にはその対象となります。

② 拡充 みどり資源有効利用促進事業

間伐材の搬出について支援している「みどり資源有効利用促進事業」の対象林齢について十六〜三十五年生を十六〜四十五年生までに広げます。

- ◆事業実施主体 市町村
- ◆補助率 二分の一以内
(市町村が合わせて四分の三以上補助するもの)
- ◆実施期間 十一年度から十五年度



二 新 森林資源モニタリング調査費

六、〇〇〇千円

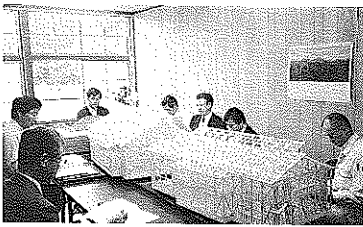
「持続可能な森林経営」の推進に資する観点から、森林の状態とその変化を把握・評価するため、県下約百六十箇所の地点の植生状況や森林の健全度等の調査を行うとともに、

収集したデータの統計的な分析・処理を行います。

- ◆事業実施主体 県
- ◆実施期間 十一年度〜(五年で一巡する継続的な調査)
- ◆木の香るまちづくり提案事業 三、〇〇〇千円

市町村等の公共建築物の木造化を促進し、県産材を使用した木造建築物の良さを周辺に波及させ、又、木造公共建築物に対する各種障害を減少させるため基本計画のプラン提案と利用技術提案を行います。

- ◆事業実施主体 徳島県木造住宅推進協議会、徳島県木材需要促進協議会
- ◆補助率 二分の一
- ◆実施期間 十一年度〜十三年度



四 新 徳島すぎ製品魅力向上促進事業

五、五〇〇千円

徳島すぎのブランド推進、高品質化をさらに進め、徳島すぎの特徴を活かし、付加価値の高い製品の生産を進め、徳島すぎの魅力を上させることにより需要の拡大を図ります。

- ◆内容 マーケティング調査、品質規格の表示促進など
- ◆事業実施主体 徳島県木材協同組合連合会
- ◆補助率 二分の一
- ◆実施期間 十一年度〜十三年度

五 新 木の香るまちづくり促進事業

七、五〇〇千円

県産材需要拡大のため、地域材を有効活用した木の文化の高揚に貢献する優良な木造住宅団地について、建設を促進するのに必要な支援を木造住宅振興施策と木材利用推進施策の連携のもとに行います。

- ◆内容 木造住宅及び外構施設等に関するPRなど
- ◆事業実施主体 徳島県住宅供給公社
- ◆補助率 二分の一
- ◆実施期間 十一年度

六 新 「みどり世紀の森」づくり

推進事業 二、〇〇〇千円

県民参加による森林づくりの拠点となる、「みどり世紀の森」を設定し、県民参加による森林づくりに関する普及啓発の場などとして活用します。

- ◆事業実施主体 県
- ◆実施期間 十一年度



七 新 ひょうごグリーンネット

五〇〇千円

「ひょうごグリーンネットワーク」の運動を通じて広がった徳島、兵庫県の交流を継続するために、震災復興状況報告会や緑化講演会等を開催します。

- ◆事業実施主体 県社団法人とくしま森とみどりの会
- ◆実施期間 十一年度
- (林業振興課 企画調整係)

新たに誕生した 「森の案内人」の紹介と 活躍中の「森の案内人」

新たに 森の案内人誕生

徳島県が、森林での野外活動や学習活動、森林づくりボランティア活動の指導などを行うことのできる専門の知識と技術を持った「森の案内人」養成事業を平成九年度より十一年度にかけて実施していますが、このたび、平成十年度に講座を終了した、第二期三十二名に認定証が授与され「森の案内人」としてスタートいたしました。

「森の案内人」は、地域の子供会や様々なグループなどからの依頼などにより、森林での学習やレクリエーション活動の指導をしたり、県民参加による森林づくりボランティアのリーダーとして活動していただくこととなっています。

今回認定を受けられた方々は、県

下各地にわたり、職種も、会社員、公務員・主婦・林業者・教員・銀行員等幅が広く、今後は、こうした個性と特色を生かした活動に対し大いに期待をしています。

認定者のみなさん

- 【徳島市】柳原一雄 中村ようこ
 中村 彰 園元良典
 湯浅利男 角出金次
 神野尚子 小松研一
 荻谷勝久 高畑妙子
 吉田 努 天羽 登
 長戸聡子
- 【小松島市】久米久夫 太田尚子
 【松茂町】小川英則 小川彰子
 【藍住町】佐野 勲
 【板野町】井上 睦
 【吉野町】中西敬子
 【石井町】山口廣之
 【佐那河内村】桑原健一



- 【阿南市】柳谷 匠 篠原 茂
 神野重信
 【木頭村】高石康夫
 【海部町】土田 豊
 【鴨島町】北山恵子 北山光良
 【穴吹町】井口宏子
 【三好町】中村春市
 【池田町】増原久志

(三十二名)

月日	午前(10:00~12:00)	午後(13:00~16:00)
第1日	開講式オリエンテーション 山村と林業、森林の法令	森林と人間生活
第2日	10:30 森林のきのこ	森林のきのこ
第3日	森林ボランティア活動実習	森林ボランティア活動実習
第4日	森林の樹木観察	森林の樹木観察
第5日	森林の野鳥	野外ゲーム(ネイチャーゲーム)
第6日	県民参加の森林づくり	生きものの自然観察や指導方法
第7日	森林の生態	森林の生態
第8日	9:30 森林の動物	登山やハイキングの方法 15:30
第9日	持続的な森林経営	森林と土壌と水 15:00終了
第10日	木材の利用 特用林産	森林の保全 筆記試験 閉講式

平成十年度
森の案内人養成講座の内容

「森の案内人」 地域で活躍中

「森の案内人」は、平成九年度に三十八名、平成十年度に三十二名が認定され、現在七十名の皆さんが県下各地で活躍中です。

また、平成十一年度も約三十名の「森の案内人」を養成する計画で、県下に約百名の「森の案内人」が誕生する予定です。

ここでは、第一期の「森の案内人」にスポットをあて、その活動を紹介いたします。

県下各地から集まった受講生、初めは中々馴染めなくても、そこは同じ森林への強い思いを抱いた面々、いつしか解け合い、仲間意識も生まれ、和気あいあいの内に閉講式。

お互いの連携と情報交換を強めようと、平成十年四月二十九日に「徳島県森の案内人ネットワーク」(三村純也会長を設立いたしました。その後、毎月第二土曜日に定例会を開催しながら、これからのあり方を話し合うとともに、各種の行事への参加指導についての検討を行っています。

趣 旨

徳島県森の案内人ネットワークは森林を愛し育み、自然を守りその再生を希求し、できる限り多くの県民の皆さんに森林や林業についての理解と自らの体験によって森林を守り育てる大切さを伝え共有するために、植樹や間伐、林内での体験学習、自然観察、レクレーション活動などの橋渡しをお手伝いしたいと願っています。



ウォークラリーのひとこま

特に、昨年、徳島県で開催された「緑の少年団全国大会」において、ボランティアとして参加し、ウォークラリーの運営と子供たちの指導について全面的に協力した

頂いたことは大きな成果として残っています。

また、県民参加の森林づくりボランティア活動にも多くの人が参加すると共に、間伐作業等の技術指導にも携わっています。

この他、編集部で掌握している活動にも、谷岡務さんが、平谷小学校児童に樹木の学習講師・坂東直道さんが、市場町内の小学生に対して、自然観察会を年に数回行い、講師として指導・田中貴代さんが、ブナの原生林がある高丸山の自然や上勝町の山村の状況を登山者に教えている・眉山に桜の苗木を植えるのにも会員の多くが協力するなど、「森の案内人」の活動が県下の各地で広がってきています。

平成十一年度に入っては、「森の案内人ネットワーク通信」を発行すると共に、ネットワークの主催する行事も計画して現在進めていますので参加してみたいかがでしょうか。

「植物観察会」

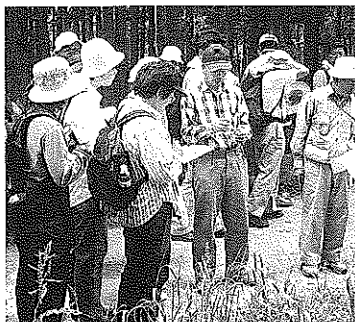
五月十六日 実施済

「吉野川源流探訪」

八月一日 実施予定

「つるクラフト」

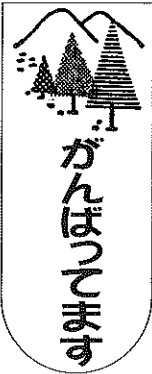
▼植物観察会の状況



▲神山の名木
イチイガシの前で参加者の記念撮影

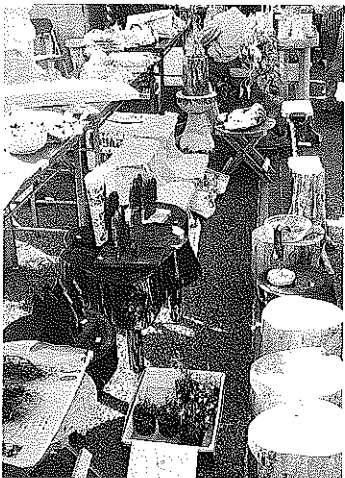
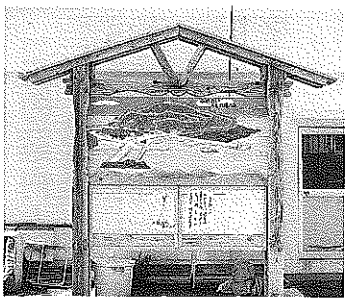
十一月十四日 実施予定
森の案内人ネットワーク連絡先
県庁林業振興課
〇八八一六二二―二四八二
森の案内人ネットワーク主催
植物観察会の状況
五月十六日神山町にて開催
参加者 二十五名

林研とみんなの情報交流コーナー



穴喰町森林組合青年部

穴喰町森林組合青年部は平成十年度の林研グループの支援事業で新しい木工クラブ商品の開発と新しい商品の販売促進を行いました。この木工クラブ商品は、青年部の人達が雨のときの対策に何かしようということで補助事業によりろくろ機械やロゴソールを導入しました。主に八人ぐらいの会員が主となりイベントに出品したり、道の駅や国民宿舎などで展示販売をしたり、木製看板の製作なども



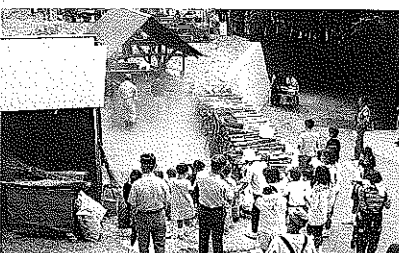
行ってきました。しかし、会員の仕事の関係で活動が不定期なことや大手小売店向けの本格的なパンフレットがないことから商品の種類が豊富な割に販売が拡大しませんでした。そこで、市場調査を行うとともに消費者のニーズにあった商品を数点試作し、販売促進用のパンフレットを持って、イベントに参加したり、ホームセンターなどへの売り込みを行いました。また、具体的な商談の話はまとまっていませんが、今後これらの需要に配慮られる生産体制をつくる必要です。さらに、調査の結果、五〇〇円から二、〇〇〇円の商品が多く売れていることからこのような商品群を中心に販売していきたいと考えています。

池田町 山水会

地域資源の利活用と炭焼き技術の保存と伝承をテーマに地道な炭焼き活動を繰り返し広げてきました。

平成十年度の木炭販売実績では、一、五〇〇千円の売り上げを計上、本年度では県単・山のお宝有効活用促進事業を組み込み、商品開発・流通業者を紹介したPR活動等幅広い事業展開を催します。

また、平成十年十一月に管内の炭焼き生産者・林研グループ・流通業者等を参集し「三好郡・炭の会」を立ち上げた。炭焼き技術交流と共に付加価値の高い製品づくりを目指し、ひいては地域振興へと結びつくことを狙うグループであり、将来、徳島県三好郡で木炭品評会(サミット)を計画しています。



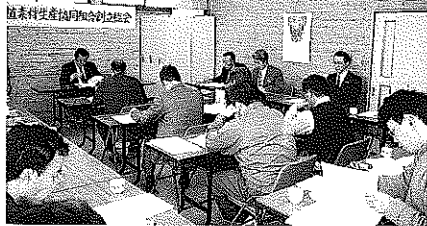
組合誕生

阿波麻植素材 生産協同組合の創立総会

去る三月二十六日に、この創立総会が設立同意者八名のほか関係者出席の下に開催されました。

設立経過の報告、定款制定や事業計画の審議、また、事務所を森林組合に置くことも決定しました。

今後は、個々の組合員が共同事業を通じて森林所有者に利益を還元できる素材生産業者として体質強化を図り、阿波・麻植郡内の木材生産の中心的な担い手として地域林業の発展に寄与してもらいたいものです。



林業総合技術センターの業務概要

当センターの主要業務は、徳島県林業総合技術センターの設置及び管理に関する条例第二条による業務として、本県林業の振興に寄与するため、次の業務を行っています。

① 森林、林業、林産業に関する試験研究。

② 林業従事者及び林業後継者等に對して、林業に関する知識、技術及び技能についての研修。

③ センターの機械器具の供用。

④ センターに依頼を受けて行う試験。

一 試験研究業務

試験研究業務においては、国補事業等により、次の六課題の試験研究を重点的に取り組むこととしています。

① 多面的機能発揮に適した森林造成管理技術の開発

広葉樹林等多様な森林造成のための実態調査等によって、新たな森林造成管理方法の確立に資する。

② 酸性雨等森林衰退モニタリング調査

国の委託事業により、全国規模で実施されており、本県では一三地点を設定、本年度は鳴門市、三野町、一宇村の三地点で森林の衰退状況を調査する。

③ シカ、カモシカの森林被害防止法の開発

区画法及びスポットライトセンサーにより、生息密度調査を行うとともに、森林の被害態様を調査し、生息密度管理モデルの確立に努める。

④ 徳島型木造住宅の性能向上技術の開発

建築基準法の改正に伴う建築基準の性能規定化に対応するため、徳島型木造住宅の住宅部材について接合強度や耐久性を評価するとともに、調温、調湿性など木材の特性を生かした居住性能の向上を図る。

表1 試験研究課題一覧表

No	研究課題	担当科	No	研究課題	担当科
1	地理情報システムによる林業経営管理に関する試験	育林科	12	地域材を利用した高信頼性構造用材の開発	木材利用科 木材化工科
2	多様な森林造成のための森林施業の調査研究	"	13	徳島すぎの低コスト急速乾燥技術の開発	木材化工科
3	精英樹検定林等の調査	"	14	徳島すぎの材質改良技術の開発	"
4	精英樹の増殖試験	"	15	徳島すぎの先端化工技術の開発	"
5	森林の機能保全に関する研究	"	16	徳島型木造住宅の性能向上技術の開発	木材利用科 木材化工科
6	酸性雨等森林衰退モニタリング調査	"	17	食用きのこ生産新技術開発に関する試験	緑化・特産科
7	穿孔性害虫の防除試験	保護科	18	ニュータイプきのこ資源の利用と生産技術の開発	"
8	松くい虫防除の関連調査	"	19	巨樹・古木等の保存に関する試験	"
9	野生獣類の生態と防除技術の開発	"	20	徳島県に産した緑化樹の選抜及び増殖技術に関する試験	"
10	徳島すぎ等の材料性能に関する研究	木材利用科	21	間伐材木炭を利用した土壌改良実証試験	"
11	徳島すぎ等の構造利用に関する研究	"	22	きのこ廃培地の早期堆肥化に関する試験	"

技術情報

⑤食用きのこの生産技術と優良品種の開発

菌床シイタケを中心とした高品質シイタケ増収剤の開発と優良品種の育成を引き続き行う。

⑥環境緑化木育成管理技術の確立
緑化木植栽地の土壌改良剤として間伐材木炭の効果の解明とシイタケ廃培地の早期堆肥化技術に取り組む。

以上、当センターの主要な試験研究課題を紹介しましたが、五科一〇名の研究員が、表一 試験研究課題一覧表による、二二の研究課題に取り組んでいます。

なお、それぞれの研究概要等について、次号より各号から詳しく紹介を致しますので、本紙面では割愛させて頂きます。

二 研修業務

研修業務においては、労働安全衛生法(当センターは労働省指定教習機関となつてゐる)に基づき本年度表一 二林業技術研修一覧表による、専門研修をのべ四九日間実施し、実人員二五五名の人材を養成することとしています。

また、普及活動用機械器具貸付

表2 林業技術研修一覧表

研修の種類	日程
車両系建設機械運転技能研修	平成11年9月1日～3日及び9月6日～8日
フォークリフト運転技能研修	平成11年9月27日～28日及び10月5日～8日
はい作業主任者技能研修	平成12年1月27日～28日
玉掛技能研修	平成11年10月13日～15日及び10月18日
小型移動式クレーン運転技能研修	平成11年10月8日～10日
林業架線作業主任者研修	平成11年5月25日～28日及び6月2日～4日 及び6月22日～25日及び6月30日～7月2日
機械集材装置運転特別教育	第1回:平成11年6月10日～11日
	第2回:平成11年11月16日～17日

なお、チェーンソーや刈払機の研修は、林業木材製造業労働災害防止協会徳島県支部が実施しています。

研修受講についてのお問い合わせ

徳島県林業総合技術センター企画研修係のほか、最寄りの農林事務所林務課、又は森林組合にお問い合わせください。

事業として、次の機械器具を林業の機械化と、技術普及活動を推進するため、無料貸出を行っています。

詳しくは当センターの企画研修係まで、お問い合わせください。

※貸出機械器具一覧

スカイキヤリー・小型林内作業車・自走式ウインチ・アキャロップウインチ・ゾーレンウインチ・ひっぱりだこ・シングウミウインチ・背負い式枝打機・自動枝打機・ワイヤーロープ巻取機・簡易製材機・OPS式製炭炉・簡易木登り器

三 農業大学校林業分校

当センターには、徳島県農業大学校の実科の一つとして、林業分校を設置しています。

林業分校は、実科の林業技術コースとなっており、林業後継者の養成に必要な実践的技術の修得を目標としています。

新入学生は、毎年受け入れていきます。

四 国産材需要開発センター

当開発センターは、『徳島県産木材造住宅供給システム整備事業』(本県の豊かな木材資源と成熟した木材産業を活用し、独自に開発する徳島型木造住宅を近畿圏へ供給する

システム)の一環として、徳島型木造住宅に必要なとされる木材製品の商品開発や木造住宅の建築構法の開発等を支援する施設として、平成五年十月当センター内に設置されたもので、木材関連企業自らが試験研究のため自由に利用できる解放型の研究施設であります。

なお、当施設利用にあたっては企業等自らが試験等を実施出来ませんが、機械器具等の使用料、手数料は必要です。

今回、当センターにおける業務概要について掲載させて頂きました。

試験研究課題等で詳しく聞きたい、あるいは、ご相談等ありましたら、当センターまでお問い合わせください。

当センターでは、研究等相談の受けやすい体制、開かれた試験研究機関として、新たな目標のもとで研究開発をさらに推進し、地域のニーズに適確に応えていくこととしていますので、今後とも格別のご指導とご協力の程よろしく願います。

林業総合技術センター

徳島市南庄町五丁目六九

☎〇八八―六三二―四二三七

体力維持への道

池田農林事務所

林務課長 阿部裕策

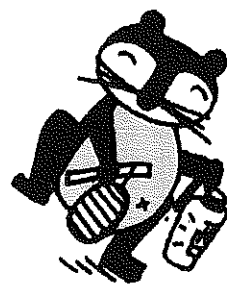
仕事の関係から、同僚職員と調査などで入山する機会が多くある。山に入れば、現実社会から遊離された気分になり、心も爽快なものとなる。それも一時間ぐらいかけ、山道を喘ぎながら登ったところが手入れの行き届いたすぎ・ひのきの高齡林であれば、尚更である。そして、その山の所有者に畏敬の念を抱くのである。私の生家にも幾ばくかの山があり、親の臍かじり時代に山が好きで一人で山に入り下刈・技打などをした体験からと思われる。

しかし、最近、年齢的なこともあがるが、山に行くと同僚職員から、取り残されて後ろから一人遅れて杖を突きながら登るか、途中で真つ先に休憩を申し入れるようになり、つくづく体力の衰えを自覚するようになってきた。

昨年の七月、主要な大会を終え

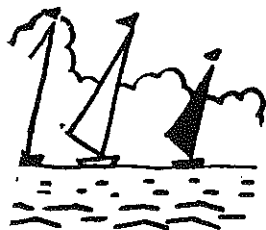
運動クラブを退部した中学三年の娘が「体が鈍ってしまうのでウォーキングをしたい」と私に言った。私もこれはいい機会だと思い二人で歩いてみると、どうしても娘に遅れるは、靴擦れは出来るはで父親の威厳をなくす惨めな日となった。反面、親は年をとるものだとも娘も初めて知ったのではあるまいか。それ以後、リハビリテープを貼りながらも継続して、現在では往復距離九km・歩行速度毎分一〇〇m・所要時間九十分・週二回を基準にしている。夜歩いているので携帯ライトを持って出かけるが、途中で多くのウォーキング同好者に出会うが携帯ライトも持たず、蛍光バンドもしていない人が見受けられる。専用歩道がない道路では無灯自転車と同じ危険な行動である。

健康図書によると、体で最も早く衰えはじめるのが足と言われており、



車社会の現代においては、歩行という運動量不足は自己努力により解消するしかないようである。また、ウォーキングは①筋肉を若々しく保つ(腰痛防止)②肥満予防③血液循環を良好にする④脳を活性化させる⑤ストレスの発散などに効果的である。

十年前、私は坐骨神経痛でコルセット生活をしてることから、また、同僚職員に少しでも遅れないように、これ以上ボケないように、歩き続ける。ウォーキング後、一本の缶ビールを味わうために。





池田
今年から
「春・まん会」です!!

池田町の女性林研グループ「下野呂内せせらぎ倶楽部」が、五月十六日に地域活性化イベントを開催した。

「春・まん会」と名付けられたこの催しは、八・九年度と実施したジャズフェスタに続くもので、地域住民の親睦を深める目的で同会が独自で企画・開催したものだ。

当日は、二部構成の人形劇を中心に、交通安全腹話術、ビンゴ大会など子供の楽しめる催し物の他、地元のおいしい料理や焼き鳥などのバザーもあり、地元小学生や父兄、座布団を抱えたお年寄りら約百名余りにぎわった。

下野呂内地区には炭焼きで活発

な活動をしている「山水会」もあり、林研グループが地域の活性化を担っている。

池田農林事務所 伊賀上 朗

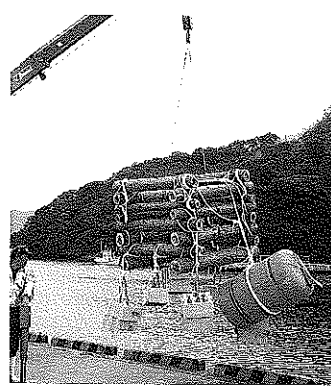


日和佐
間伐材漁礁
日和佐沖に設置

日和佐町では、にちよう林業セミナーで間伐材を実施する際、どのような間伐材を利用するか検討したところ、海(漁業)山(林業)との交流がよいことから、間伐材を利用した、漁礁づくりに取り組むことになりました。そこで日和佐町の青年漁

業者会議と青年林業者会議が協力して、日和佐町有林で間伐材を実施し、間伐材を井桁に組んだ漁礁づくりを行いました。幸い、間伐材需要拡大シンポジウムで山口県宇田郷漁協で実施した例があり、その実例を参考にしながら十基製作しました。そして四月四日に日和佐町恵比須浜沖5kmに沈設しました。日和佐町役場では、良い取組事例なので今年も引き続き実施していきたいということですが、しかし、製作数を増やすと経費が増えることや魚つき状況の調査方法など解決する必要があります。これら課題の解決を図りつつ今後も推進を図っていききたいと思えます。

日和佐農林事務所 片山 博之



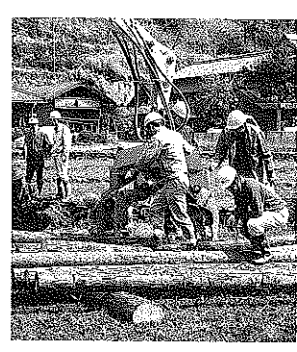
川島
林業事業体
集合研修の開催

去る三月十七日から二日間、林業事業体の従事者などを対象に九名の研修生と流域活性化センター委員や林業指導者会員を含めて二十六名で、美郷村の現地山林で林業の安全教育、高性能林業機械(タワーヤーダ、プロセッサ)の運転及び先山での玉掛け研修を行いました。

初めてこの機械を運転した人ばかりであったが、搬機の移動や枝払・玉伐の作業にも早く慣れることができ、好評であった。

また、心配された事故も、作業範囲の周囲にロープを張る措置をとると共に、全員が安全に行う意識を持っていただいで無事終了しました。

川島農林事務所 高橋、濱田





阿南
クリスマスツリー
大作戦

相生町の女性林研グループ「やまびこ会」が家庭用クリスマスツリーのモミの木の養成に取り組んでいます。約三十センチの苗木を百七十本植栽しました。苗畑は会員の休耕田を活用しています。

約一メートルに仕立てて出荷するため、養成年数は十年ぐらいを予定しています。初めての試みだけに、技術的にもまだ勉強しなければならぬことばかりなので、先進地である高知県の吾北村へ視察にも行く予定です。また売れ筋の仕様等の市場調査も行っていこうと考えています。

できればカズラ等を使用したク

クリスマスのリースも作成してセツト販売できればと考えています。女性ならではの感覚を生かしたクリスマスツリーを完成させたいと「やまびこ会」の挑戦は今始まったばかりです。

阿南農林事務所 吉永 亨



川島
土柱そよかぜ広場の
開園

去る四月八日阿波町土柱の県立自然公園の下に町が二カ年かけて林業構造改善事業等で造成していた山村広場がオープンしました。

開園式には、阿波町長、川島農林事務所長の挨拶の後に産業課長による工事概要の説明が行われ町会議員など関係者の出席により行われました。

大型木製遊具をはじめ、芝生広場、休憩所、管理棟、便所、展望広場、駐車場など総事業費約一億六千万円となっております。

なお、これらの施設には、国産の木材を可能な限り使用して需要拡大を図っています。交流の場や健康増進の場として家族づれで一度おいでみては！

川島農林事務所 濱田 浩二



脇町
成長願つて
広葉樹を植樹

平成九年に徳島を襲った台風で、大谷小学校(脇町)の裏山は倒木などの被害を受けました。このままでは、土砂流出や山崩れなどの山地災

害が起る危険性があるため、今年三月七日に大谷小学校・幼稚園の生徒児童や先生保護者ら関係者で、この周辺に自生するアラカシ、クヌギ、ヤマザクラなどの広葉樹二十種類、計四百本を植樹しました。

今回行われた植樹は環境防災林整備事業の一環で、当日は小雨模様の中、学校関係者、森林所有者、森林組合、脇町森林土木課の職員ら合計六十五人が集まり、県職員の指導のもと児童たちは早く木が大きくなるを願いながら丁寧に植えました。生徒児童は森林の大切さを知るとともに、学校生活の良い思い出にもなったようでした。

脇町農林事務所



徳島

木の香りに囲まれて クラフト工房

スーパー林道にほど近く、神山町上分中津にログハウス調の建物が現れました。そこは地元製材所の方がオープンした『クラフト工房』です。

四月末に開いたばかりの建物の中にはほのかに木の香りが漂っています。ここでは、製材所から出る端材や木の枝を使ったプランターや花台などの家具、かわいいうつろいとのまじった壁飾りなど、手作りの商品が並んでいます。できるだけ薬剤を使わないよう自然のままを心がけたそうです。また、試行錯誤の段階で、農産物などを持ち寄り、寄つてもらうなど、地域の交流の場となるようにも考えているそうです。

休日に神山にお寄りの際には、ぜひ立ち寄ってみてください。

徳島農林事務所

藤澤智子

編集後記

暑い夏が続いていますが、会員の皆さん、お変わりございませんか。

さて、平成十一年度の第一号を発行することができました。

今回より、紙面を半ページ増加するとともに、「林研とみんなの情報コーナー」を設けました。

このコーナーは、林研活動の紹介や仲間の紹介、いろいろなアイデアと技術の紹介、地域やイベントの紹介、珍しい樹木等の紹介等皆様からのいろいろな情報にもとづき、お互いの交流と情報を拡大するために設けてみました。

どんなことでも結構ですから、投稿をお待ちしております。

投稿については、一件、四百字以内の原稿に写真等をつけて、直接お送りして下さい。結構です。各農林事務所林務課に連絡して頂ければ取材に伺いますので何分よろしくお願ひします。

(編集部) 徳島市万代町 1-1

徳島県林業振興課普及指導係

電話 088-621-2458